

第3期前橋市教育振興基本計画（案）に関するパブリックコメント（意見募集）の実施結果について

- 1 意見募集期間 令和4年11月25日（金）から12月23日（金）まで
- 2 意見提出者 5名、12件
- 3 意見及び市教育委員会の考え方

No.	意見	意見に対する市教育委員会の考え方
1	<p>キャリア教育について 中学生のキャリア教育推進のために、各学校に「キャリア教育コーディネーター」を配置することを提案いたします。</p> <p>ここでの「キャリア教育コーディネーター」は、地域と学校をつなぐ役割として、地域に人脈を持ち、青少年のキャリア教育について広い知識と深い関心を持つ人材と定義いたします。</p> <p>子ども達が自らの進路を主体的に選択する能力を身につけるには、職業について広い視野と好奇心を持つ必要があると考えます。そしてそのためには、様々な地域の職業人と直接向き合い、大人達の多様な実体験から、「働く」とはどういうことなのか、「社会」はどのように成り立っているのか、今の勉強が将来どのように役立つのか、といったことを学びとる必要があると考えています。</p> <p>2014年より「青少年と未来をつなぐ教室」の運営をさせていただいておりますが、地域企業にキャリア教育への参画を希望する学校のニーズと、地域の子ども達に自らの職業のやりがいを伝えたい地域事業者のニーズは、しっかりとマッチしていると感じています。</p> <p>あとは、それを確実につなぐことのできる人材の確保が課題だと考えます。</p> <p>「青少年と未来をつなぐ教室実行委員会」では、そういった役割を果たす人材を確保し、これからのキャリア教育の発展に貢献できるよう努めていきたいと考えております。</p> <p>ぜひ、各学校への「キャリア教育コーディネーター」配置を仕組み化していただき、どの学校でも、子ども達が等しく実りあるキャリア教育を受けることができるよう推進していただけると幸いです。</p> <p>ご検討よろしく申し上げます。</p>	<p>キャリア教育については、地域の方のご協力をいただきながら実施しており、地域と学校をつなぐ窓口の必要性についても認識しているところです。ご意見いただいた「キャリア教育コーディネーター」につきましては、費用対効果も含め、必要性を検討してまいります。</p>

2	<p>(1) もっと、「教育の DX」を掲げて良いと思います。 →デジタル技術を使って、学校教育や社会教育そのベースとなる家庭教育・児童福祉の 変革と拡充を進める。</p>	<p>いただいたご意見を参考にしながら、4つの分野（学校教育分野、青少年教育分野、社会教育分野、教育環境整備分野）において、デジタル技術も活用しながら、エビデンスとなるデータや現状の課題を集約・分析し、個別最適化された指導の強化や他部署や家庭・地域との連携強化はもとより、最小の経費と労力で最大の効果が得られるよう、事務作業全般の負担軽減と業務の効率化に取り組んでまいります。 第1章において、その旨を記載いたしました。</p>
3	<p>(2) また、前橋ならではの特征として ・STEAM 教育 ・ダイバシティ&インクルージョン教育 など、注力するポイントを 前面に出した基本方針が必要と考えます。</p>	<p>今回、新たに定めた前橋の教育が目指す人間像を育成するための4つの指針と視点は、本計画において、注力するポイントを示したものです。視点のうち、「新たな価値を創造する学びの充実」が、「STEAM 教育」に対応する視点となっており、「多様性を認め合う学びの充実」が「ダイバシティ&インクルージョン教育」に対応する視点となっています。</p>
4	<p>(3) 教育の質的向上に向けて、エビデンスとなる教育データを集約して分析・活用する 基盤の整備を方針に加えてください。 ・授業、学習系データ ・校務データ ・子どもの福祉系データを統合して、学習指導・ 生活指導・学校経営の充実や保護者との情報共有を実現して、子どものウェルビー ーイングを高めるチーム作り、教育 DX の実現を方針に加えてください。</p>	<p>エビデンスとなる教育データの集約・分析・活用をする基盤の整備については、学習支援ソフトの活用状況の把握、把握した状況に基づく学校への支援体制、学習 e ポータルの導入などを進めています。 「授業、学習系データ」、「校務データ」、「子どもの福祉系データ」の統合については、令和5年度から設置されるこども家庭庁創設後の主な事務の一つとして、「こどもに関するデータ連携を通じたプッシュ型（アウトリーチ型）支援の取組の推進」が位置づけられていることから、国の動向を踏まえながら、子どものウェルビーイングを高めるチーム作り、教育 DX の実現を方針に加えることを検討してまいります。</p>

	<p>(4) 具体的重点施策の目標指標を、行政や学校の自己満足にならないよう客観的なデータとエビデンスを用いて評価してください。</p>	<p>「客観的な評価に欠ける」とされた指標につきましては、いただいたご意見を踏まえ、一部修正・追加をいたしました。「この指標で良いか、市民や有識者に広く意見を聞くべき」とされた指標につきましては、市民や有識者に広く意見を聴取する機会としてパブリックコメントを実施していること、計画（案）の作成において、教育委員や教育委員会の事務の点検及び評価における外部有識者への意見聴取を実施していることから、3年経過時点で実施する中間評価等の機会を捉え、適宜見直しを図ってまいります。「この指標でスタートして検証が必要」とされた指標につきましても、3年経過時点で実施する中間評価等の機会を捉え、適宜見直しを図ってまいります。</p>
<p>5</p>	<p>(客観的な評価に欠ける指標)</p> <p>■一人一人がチームの一員として参画する学校づくり →保護者や地域の評価も必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「充実指針を生かした学校課題の解決に向けた取組」について、「よく出来ている」、「大体出来ている」（4段階評価上位2位）と回答した教職員の割合 ・学校予算裁量制度全校説明会における参加者アンケートの満足度 <p>■校務の効率化 →アンケートではなく実データでの評価が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で利用する学習プリント等の児童生徒へのデジタル配信の実施 ・学校・学級通信等の家庭へのデジタル配信の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教科指導講師に関する調査において、教材研究の時間や子供と向き合う時間が確保できるようになったか等の各質問で、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」（4段階評価上位2位）と回答した教職員の割合 ・校務補助員に関する調査において、教材研究の時間や子供と向き合う時間が確保できるようになったか等の各質問で、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」（4段階評価上位2位）と回答した教職員の割合 	<p>ご意見いただいた保護者や地域の評価につきましては、今後検討してまいります。</p> <p>紙がデジタル配信に置き換わった実数を正確に把握することは、教育現場に新たな負担を発生させることから、全教職員に年2回実施しているアンケートにおいて、各教職員の実施状況を把握することを通じて、施策の実施状況を確認してまいります。</p> <p>教材研究の時間や子供と向き合う時間については、教職員の持ち授業数を軽減し、学級経営における事務等にあてる時間を確保することが効果的手段の1つであります。そのため、教職職員へのアンケート結果は有効的であると考えています。また、ご指摘の通り、教科指導講師や校務補助員1人あたりの勤務時間等の様々な視点から実データによる検証も大切なため、今後指標としての活用方法を検討してまいります。</p>

■ 学び続ける力の育成 → アンケートではなく実データや保護者の評価が必要

- ・ 学校評価アンケート「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業の推進」について、「よく出来ている」、「大体出来ている」（4段階評価上位2位）と回答した教職員の割合
- ・ 学校評価アンケート「学びの質を高める ICT 活用の推進」について、「よく出来ている」、「大体出来ている」（4段階評価上位2位）と回答した教職員の割合

■ 自立性・社会性の育成 → アンケートではなく実データや保護者の評価が必要

- ・ 学校評価アンケート「自立性や社会性を育てるキャリア教育の推進」について、「よく出来ている」、「大体出来ている」（4段階評価上位2位）と回答した教職員の割合

■ 教職員の資質・能力の向上を通じた指導力の育成 → 質の評価はどのようにするか

- ・ 各種研修会・授業観察・職員研修の参加人数

■ 地域とつながる学校づくり → 質の評価はどのようにするか

- ・ 授業公開、学校説明会、文化祭等学校公開への参加人数
- ・ ホームページ来訪者数

■ 部活動の指導の充実 → 質の評価はどのようにするか

- ・ 部活動入部率（80%台の維持）

■ 幼児教育の充実 → 割合と教職員・保護者のギャップ

- ・ 学校評価アンケート「幼稚園生活の充実」に関する項目「幼児が幼稚園の生活が楽しいと感じている」等について、「そう思う」（4段階評価上位1位）と回答した教職員・保護者の割合

いただいたご意見を踏まえ、保護者の割合も指標に追加いたしました。

いただいたご意見を踏まえ、保護者の割合も指標に追加いたしました。

現時点では、指導力の育成について質的評価ができる適当な指標がないため、定量的な参加人数を指標といたしました。

現時点では、地域とのつながりの質的評価ができる適当な指標がないため、定量的な参加人数や来訪者数を指標といたしました。

現時点では、部活動の指導の充実の質的評価ができる適当な指標がないため、定量的な入部率を指標といたしました。

いただいたご意見を踏まえ、教職員と保護者の割合をそれぞれ記載いたします。

■保幼小連携の推進 →割合と教職員・保護者のギャップ

- ・学校評価アンケート「将来の姿」に関する項目「幼児が小学校への憧れや期待を持てるよう指導している」等について、「そう思う」（4段階評価上位1位）と回答した教職員・保護者の割合

■特別支援教育の充実 →割合と教職員・保護者のギャップ

- ・学校評価アンケート「一人一人を大切にした特別支援教育の充実」について、「よく出来ている」、「大体出来ている」（4段階評価上位2位）と回答した教職員・保護者の割合

■教職員研修、実践的研究機能の充実 →質の評価はどのようにするか

- ・指定研修及び職務研修参加者の受講後調査にて「とても役に立つ」（4段階評価上位1位）と回答した割合

- ・学校訪問報告書の「指導・助言は役に立った」（5段階評価上位1位の割合）と回答した学校の割合

■実践的研究の推進 →質の評価はどのようにするか

- ・前橋長期研修及び前橋特別研修研究員の意識調査にて「成長した」（4段階評価上位1位）と回答した割合

■放課後の子供の居場所の充実 →保護者や地域の評価も必要

- ・遊び場指導員アンケートにおける指導員の充実度の割合

■暮らしを支えるサービスの充実 →利用数では

- ・電子書籍所蔵数

いただいたご意見を踏まえ、教職員と保護者の割合をそれぞれ記載いたします。

計画（案）につきましては、教職員と保護者の割合を既に記載しています。

指標の割合が高くなるほど、質の高い研修が実施されたものと考えます。また、対象とする教職員や研修内容に応じて、外部講師を招聘することにより、質の担保を行っています。

質の評価も含めた指標であると考えております。

指標の割合が高くなるほど、質の高い研修が実施されたものと考えます。

ご意見いただいた保護者や地域の評価につきましては、今後検討してまいります。

いただいたご意見を踏まえ、所蔵数に加えて、貸出冊数を併記いたしました。

■子ども読書活動の推進 →利用数では

- ・市内小学1年生への図書館利用カード配付率

■子育て・親子支援の充実 →参加者の評価では

- ・子育て親子支援事業の開催回数

■公民館及びコミュニティセンターにおける社会教育事業の充実 →参加者の評価では

- ・公民館及びコミュニティセンター事業開催回数

いただいたご意見を踏まえ検討させていただきましたが、少子化の影響で出生数が減少している中で、児童生徒の利用人数より、配付率のようなパーセンテージを目標指標とする方が現実に適っていると考えます。

子育て親子支援事業については、各公民館において、多種多様な個別事業を実施しております。参加者の評価（アンケート）は個別事業ごとに行っていることから、計画の指標としては、開催回数とし、参加者の評価（アンケート）については、個別事業の改善・企画の際に参考とするものと考えています。

公民館及びコミュニティセンターにおける社会教育事業については、各公民館及びコミュニティセンターにおいて、多種多様な個別事業を実施しております。参加者の評価（アンケート）は個別事業ごとに行っていることから、計画の指標としては、開催回数とし、参加者の評価（アンケート）については、個別事業の改善・企画の際に参考とするものと考えています。

（この指標で良いか、市民や有識者に広く意見を聞くべき）

■学校支援体制の充実と問題行動の防止

- ・市立小・中学校の問題行動数
- ・SOS の出し方に関する教育を年1回以上実施した学校の割合

■子供の被害防止活動の充実

- ・ケータイ教室での学習内容を自分の課題としてとらえている児童生徒（アンケートに「とても思う」（4段階評価上位1位）と回答）の割合

市民や有識者に広く意見を聴取する機会としてパブリックコメントを実施いたしました。

また、計画（案）の作成においては、教育委員や教育委員会の事務の点検及び評価における外部有識者への意見聴取を実施しました。

なお、指標につきましては、3年経過時点で実施する中間評価等の機会を捉え、適宜見直しを図ってまいります。

5

■不登校対策の充実

- ・不登校児童生徒のうち、欠席が 90 日以上の児童生徒の割合
- ・欠席が 90 日以上の不登校児童生徒のうち、校内での専門的な相談・指導（SC、SSW、養護教諭）、もしくは学校外の機関（教育支援教室、医療機関、民間施設等）からの相談・指導を受けた割合

■いじめ対策の充実

- ・児童会・生徒会の活動において、児童生徒が主体となったいじめ防止活動に取り組んだ小中学校数の割合
- ・スクールロイヤーによる、法的な側面からいじめの未然防止に関する学習、もしくは教職員向けの研修のいずれかを実施した小中学校数

■青少年の育成推進

- ・高校生学習室利用登録者の地域活動参加者数

■図書館運営への市民参加の促進

- ・小中高生によるボランティア参加の延べ人数

■市民ボランティアとの連携、円滑な協力体制づくり

- ・ボランティア会員数

（この指標でスタートして検証が必要）

■地域の教育力を生かした教育の推進

- ・市立学校におけるコミュニティ・スクール導入率
- ・学校評価アンケート「保護者や地域住民との協働による学校運営の仕組みづくりの推進」について、「よく出来ている」、「大体出来ている」（4 段階評価上位 2 位）と回答した保護者の割合

■豊かな人間性の育成

- ・学校評価アンケート「生き方の自覚を深める道徳教育の推進」について、「よく出来ている」、「大体出来ている」（4 段階評価上位 2 位）と回答した児童生徒の割合

市民や有識者に広く意見を聴取する機会としてパブリックコメントを実施いたしました。

また、計画（案）の作成においては、教育委員や教育委員会の事務の点検及び評価における外部有識者への意見聴取を実施しました。

なお、指標につきましては、3 年経過時点で実施する中間評価等の機会を捉え、適宜見直しを図ってまいります。

3 年経過時点で実施する中間評価等の機会を捉え、適宜指標の見直しを図ってまいります。

5

■健康増進・体力の向上

- ・学校評価アンケート「運動好きな子供を育て、体力向上を図る取組の推進」について、「よく出来ている」、「大体出来ている」（4段階評価上位2位）と回答した児童生徒の割合
- ・健康教室申込児童の参加率

■課題の解決に向けて機能する学校運営

- ・学校評価アンケート「問題の解決に向けて機能する学校運営」に「そう思う」、「だいたいそう思う」（4段階評価上位2位）と回答した生徒・保護者の割合

■生徒指導の充実と良き校風の樹立・継承

- ・学校評価アンケート「規則正しい学校生活を送っている」に「そう思う」、「だいたいそう思う」（4段階評価上位2位）と回答した生徒・保護者の割合

■特色あるカリキュラムと進路指導の充実

- ・学校評価アンケート「特色ある教育活動を行っている」に「そう思う」、「だいたいそう思う」（4段階評価上位2位）と回答した生徒・保護者の割合

■地域の人たちによる体験・交流活動を通じた地域健全育成活動の充実

- ・学校評価アンケート「地域行事への参加や交流活動の推進」について、「よく出来ている」、「大体出来ている」（4段階評価上位2位）と回答した保護者の割合

■国際理解教育活動の充実

- ・オンライン交流や多文化理解講座等を実施する学校数

■交通安全教室・天文教室・環境教室の充実

- ・参加者アンケートにおいて、「交通安全への意識が高まった」と回答した子供の割合
- ・参加者アンケートにおいて、「天文への知的好奇心が高まった」と回答した子供の割合
- ・参加者アンケートにおいて、「環境への知的好奇心が高まった」と回答した子供の割合

3年経過時点で実施する中間評価等の機会を捉え、適宜指標の見直しを図ってまいります。

■ クラブ活動の充実

- ・参加者アンケート「自分なりに工夫して活動に取り組んだ」と回答した子供の割合

■ 総合教育プラザの管理と整備

- ・総合教育プラザ利用者数

■ 文化事業の推進

- ・郷土資料の知識やレファレンス技術向上のための意見交換会や勉強会の開催回数

■ 文化財等に親しみ、郷土への愛着の心の未来への継承

- ・語り部等のボランティアの利用人数

■ 未来へ繋げる人づくり、学びの場の構築と文化財の普及啓発

- ・文化財施設入館者数

■ 郷土の魅力の発見と新たな創出

- ・総社古墳群保存活用計画策定の進捗率
- ・郷土芸能連絡協議会加盟団体の子供が加入する団体数

■ 学校教育施設の快適性向上

- ・小中学校のトイレ洋式化率
- ・小学校特別教室（理科室、家庭科室、図画工作室）の空調設備整備校数（累計）

■ 学校教育施設のバリアフリー化推進

- ・エレベーター設置校数

■ 青少年教育施設の管理と整備

- ・児童文化センター来館者数

■ 社会教育施設等の整備

- ・計画期間内に施設整備に着手した公民館等の施設数
- ・本館とこども図書館におけるイベント開催件数

指標につきましては、3年経過時点で実施する中間評価等の機会を捉え、適宜見直しを図ってまいります。

5	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の人材育成と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民講師の登録講座数 ■ 文化財施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財保護指導員による巡回監視の「A 評価」、「B 評価」（4段階評価上位2位）の割合 ■ 学校給食を要とした食育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 群馬県産野菜の地産地消率 ■ 安全・安心でおいしい学校給食の安定供給 <ul style="list-style-type: none"> ・ 西部共同調理場の延命化工事にかかる事業の進捗率 ■ 教育振興基金の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育振興基金の活用事例紹介と寄附の依頼に関する情報発信件数 	<p>指標につきましては、3年経過時点で実施する中間評価等の機会を捉え、適宜見直しを図ってまいります。</p>
6	<p>「第1章 2教育をめぐる本市の状況」では、各課題に対して教育が果たす役割を広く捉え、大切なことが太字で示されており、方向性が明確になっていてとても分かりやすいと感じます。その役割が「第3章 具体的重点施策」になるべく多く反映されるとよいと思いますが、目標指標を決めるとなると、これまでとの継続性や具体的取組を考えたときに施策が限定的になってしまうのが少し残念に思うところです。</p>	<p>第3期計画は、資源（ヒト・モノ・カネ）が限られる中、計画期間において達成すべき目標を明確化するため、他の施策よりも重点的に取り組む施策を「第3章 具体的重点施策」に記載しています。しかしながら、ご意見にあるように、これまでの継続性もあることから、計画に記載していない施策についても取り組んでまいります。</p>
7	<p>現在、PTA関係の仕事に関わっている立場から2点お伝えします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが健やかに成長するためには、保護者・地域との連携がとても大切だと思います。その中で特にPTAの果たす役割は大きいと考えます。先日の上毛新聞に前橋市PTA連合会が取り上げられ、子どもや学校をサポートする組織としての本質を保ちつつ、コロナで生じた変化をプラスに変えていきたいとありました。前橋市学校教育広報でも学区別教育懇話会の記事が掲載されており、積極的に情報交換を行っていることはよく分かります。このような変革の時代の中で、市教委として市P連と今後どのような連携を図っていくのか、何かふれていただけるとよいと思います。 	<p>PTAが実施する活動は、大変重要な役割を果たしていると考えており、市PTA連合会とはこれまでと同様、子供たちの健やかな成長のために、連携を図っていくものと考えています。いただいたご意見を踏まえ、第1章にPTAを追記いたしました。</p>

8	<p>・部活動の地域移行については、「地域や関係団体と連携しながら、段階的に進めていく必要がある」と第1章で示されていますが、このことについて第3期では具体的にどのような段階が考えられ、どこまで取り組んでいくのか少しでも方向性を示せるとよいかと思えます。市で作成した「適正な部活動の運営に関する方針」も必要に応じ見直すことも考えられると思えますし、現在、中学校の保護者が集まると今後の部活動のあり方についての話題が大変多いと感じているところです。このことについても何かふれていただくとよいかと思えます。</p>	<p>部活動の地域移行については、今年度、関係団体との情報交換や先進地視察を行いました。第3期の計画期間である令和5年度以降については、検討委員会を立ち上げて、休日の部活動から移行を進めていく予定です。いただいたご意見を踏まえ、第1章にその旨を追記いたしました。</p>
9	<p>不登校支援についてですが、学校に戻すことを前提とすると、結果的に「通学できるかどうか」という一つの基準だけに縛られて苦しむ親子がいると思えます。学校だけでなく、多様な学びを公的にも認め（出席とカウントするなど）、様々な個性や特性が歓迎される前橋市の教育であることを望みます。</p>	<p>不登校支援については、全て学校に戻すことを前提としておりません。不登校児童生徒の出席の取扱いについては、現在においても、文部科学省のガイドラインを踏まえながら、学校外にある教育支援教室や民間施設の利用など「通学できるかどうか」という基準に縛られない取扱いがあり、多様な児童生徒の状況に応じた支援を引き続き行ってまいります。</p>
10	<p>タブレットの活用については、学校によってかなりの差があります。中学生の息子は手紙すらも全て紙配布です（小学生の息子娘は基本的にタブレット経由で配布）。あんなに荷物の重量を増やしたのに、たいして活用されず、残念です。何かを導入したら、何かをやめる、などしないと、先生の負担が増えるだけだと感じます。また、低学年の子どもの場合体重の25%もの荷物を毎日背負うことになり、健康の面でも気がかりです。体重60キロの大人なら、15キロの荷物を背負って、毎日往復4キロ歩く計算になります。（我が家の場合）</p>	<p>タブレット活用についての学校間の差につきましては、本市としても課題として認識しています。学校間の差の解消に向けて、教職員への活用研修の実施や、ポータルサイトによる情報共有、校務効率化のための具体的な取組の提示など、活用促進のための支援を引き続き行ってまいります。</p>
11	<p>理想を掲げるのは大切ですが、現場の先生方や子供達の現状や意見をリサーチしてから進めて欲しかったです。</p>	<p>計画策定にあたっては、教職員、保護者、児童・生徒を対象に毎年実施している学校評価アンケートの結果等を踏まえながら素案を作成しました。また、計画につきましては、適宜見直しを行うこととしておりますので、引き続き、社会の変化や現状を確認しながら計画を推進してまいります。</p>
12	<p>計画(案)21ページの目指す人間像の育成イメージについて、「針(指針)と糸(視点)で布(施策)を織り」とあるが、布を織る時のイメージは針と糸ではないのではないか。13ページの「2 前橋の教育が目指す人間像を育成するための4つの指針と視点」のデザインにも針と糸のイメージがある。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、ご指摘の箇所を含め、あらためて全体の文言、デザインの見直しを行いました。</p>